

PV公開記念ショートストーリー

『島崎信長様』

▲ 閉じる ▲



「あ、綾子さん……」

「どうしたの、タックン？」

「どうしたもこうしたも……なんですか、このタイトル？」

「あらタックン、まさか島崎信長様を知らないの？」

「いや、それは知ってますよ。有名な声優さんじゃないですか……」

「そうっ、第一線で活躍する超人気イケメン有名声優さんよ！」

「そんな人の名前が、なぜこのＳＳのタイトルに……」

「ほら、最近『ママ好き』のＰＶが作られたでしょう？　ちゃんと声優さんが声を当ててくれる、本格的でお金のかかったＰＶ。そのＰＶでのタックンの声が……なんと島崎信長様なのよ！」

「そ、そうらしいですね。俺の声、島崎さんがやったださるみたいで」

「島崎様にはね……ほんと、感謝してもしきれないぐらいだわ。今回のＰＶを引き受けてくださったことはもちろん、ママ好きの一卷が発売したときには……なんとツイッターで感想を言ってくださったの！」

「あれは驚きましたよね」

「驚いたし、感動したわ。感涙したかもしれない。まさかあの島崎信長様が……ＳＡ○のユージオが『ママ好き』を読んでくれているなんて……！」

「……ＳＡ○の場合、そこを○で伏せてもあんまり伏せ字の意味ないですよ」

「島崎様のツイート、反響がすごかったもんね。ママ好きのヒットの半分は島崎様のおかげと言っても過言ではないぐらいよ。二度と足を向けて眠れないわ。恐れ多くて様をつけずにはられない」

「ま、まあ、ありがたい限りですよね」

「ＰＶの声優を誰にお願いするかってなったとき、一応声優さんの希望みたいなのも訊かれたのよ。こういうのってオーディションとかのステップを踏んで決まるアニメと違って、出版サイドから『○○さんをお願いしますでしょうか？』ってオファーをすることが多いからね。もちろん希望が必ず通るわけじゃないんだけど。『ママ好き』の場合……声優の希望を尋ねられたとき、作者、イラストレーター、担当編集の三人が口を揃えて『タックンは島崎さんで！』と即答したらしいわ」

「満場一致！？」

「三人の心が一つになった瞬間ね」

「なんでそんな……いや、なんていうか、一応『ママ好き』って、綾子さんがメインじゃないですか。作品の顔っていうか、一番アピールすべきポイントっていうか。だったら制作陣が声優の希望出す場合も、まずは綾子さんの声優に希望を出すべきじゃ……」

「今回は、なによりもまず島崎様への思いが勝ってしまった感じね」

「……それでいいんですか？」

「というわけで、島崎信長様がタックンを演じてくださる『ママ好き』のＰＶ、どうぞよろしくお願いします！」

「お、お願いします。いやでも、本当にいいんですか、これで？　俺の声優さんばかりで、綾子さんの声をやったださる声優さんのことも、ちゃんと伝えないと……」

「……実はね、タックン。この手のＰＶってのは、いろいろバタバタするのが世の常でね。いろいろとギリギリで決まるのが普通なのよ」

「はあ」

「だからね、このＳＳを書いてる段階では……まだ私の声優が決まってないの」

「そ、そんな裏事情が……」